

暴力表現 « putain » の用法について

楊 鶴
(筑波大学大学院)

フランス語の暴力表現である « putain » は話し言葉に多く見られ、一般的に「下品な言葉」(gros mots)として認識されている。他人に向かって、「putain!」と発話することによって、罵り、悪口、侮辱、非難、蔑み、軽蔑、批判 (insulte, injure, outrage, offense, affront, invective, insolence, avanie) などの意味効果を生じさせ、話者の不満や他人への非難を表すことができる。

« putain » の実際の使用状況をコーパスから抽出し、発話時に見られる話し手と聞き手の関係、発話場面の状況を踏まえて観察したところ、他人による迷惑行為や自分にとって不都合な状況に対する、「話者の反応」として捉えることができる。

例えば、以下のような用法が観察される。

(1) タバコを取り上げた父親に対して

Anaïs : lâche les, *putain*, tu vas m'énerver, je te jure tu vas m'énerver, lâche mes clopes, donne-moi mes clopes, donne-moi mes clopes

(1) では、「タバコを取り上げられた」という迷惑行為に対する発話である。話者の相手に対する不服や自分の思い通りにならないという心情が現れている。このように、迷惑行為を引き起こした相手に対して反発する場面、または相手に対して何らかの要求をする場面において多く使用されている。

本発表では、発話場面と対人関係を考慮しつつ、「putain」をある行為や物事に対する反応として捉える。さらに、間投詞的な用法にも着目し、発話にもたらされる機能について考察する。